

## 大学の世界展開力強化事業（平成27年度採択）事後評価結果

大学名	東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学
整理番号	L-5
事業名	日本と中南米が取組む地球的課題を解決する文理協働型人材養成プログラム

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価	S	事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
コメント	<p>本プログラムは、地球規模の課題解決を目指し、東京外国語大学のリベラルアーツ・地域研究、東京農工大学の環境・食糧・エネルギー、電気通信大学の情報・ICT分野というそれぞれの研究教育・研究技術の特徴を活かしながら、3大学が連携協力を進めることにより、研究教育の相乗効果を発揮させて、文理協働の実践型グローバル人材の育成を追求したプログラムとして実施したものである。</p> <p>プログラム展開においては3大学の連携協力は一貫して緊密で、着実にプログラムを実施し、順当な成果をあげており、それぞれの大学の特徴を活かして構成する派遣学生のユニットである「トリプレット」は、高い学習効果を実現して、目標とした文理協働型学修を可能とした。また、大学院の「共同サステナビリティ研究専攻」の設立は、その発展形態として注目すべき成果であり、今後のプログラム継続の主体を担うものとしても期待できる。そして、受入学生にはバディ制度によるきめ細かな支援と、日本語・日本事情の教育プログラムを経て、履修計画に基づく単位認定を実施することにより、質保証に配慮するとともに、学生に対する安全管理の徹底と十分な情報提供を通じて、環境も整備されている点は評価できる。多彩なインターンシップ実施に向けた受入先企業の開拓も積極的に取り組んでおり、企業側からインターンシップ継続の要望がなされるなど実践的な教育内容においても成果をあげている。中間評価時に課題とされていたダブルディグリー制度の設置も着実に実現され、実績を積み上げてきていることは、真摯な取組がなされたものと言える。また、学生の専門性、安全性などに総合的に配慮したインターンシップが実施され、文理協働と異文化間の協働が多様な形態で機能するよう一貫した流れで組み立てられている。このような国を超えた大学連携と、日本国内での専門性が異なる研究教育の協力体制とを組み合わせた相乗効果によりあがった成果は、当初の事業計画を上回るものであり、高く評価できるとともに、本プログラムによる成果は、特に大学間連携による国際化のモデルとして他大学の参考になることから、種々の手段を通じて広報に努めることが望まれる。そして、今後も従前と同規模の事業継続が計画されていることから、確実なプログラム運営かつ発展的な取組などのより一層の尽力に期待したい。</p> <p>最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的なプログラム展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、さらなるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。</p>	